



日本ラテンアメリカ学会 会 報



2024年11月30日

No. 145

1. 理事会報告

○第180回理事会

2. 第46回定期大会の開催と発表者募集のお知らせ
3. 地域研究部会開催案内
4. 『ラテンアメリカ研究年報』第45号の原稿募集について
5. 新刊書紹介
6. ポスター発表を振り返って
7. 事務局から

1. 理事会報告

○第180回理事会

日 時：2024年9月28日（土）14:00～16:16

場 所（開催方法）：Zoomを使用したオンライン会議

出席者：浅香、安保、磯田、浦部（理事長）、奥田、川上（書記）、菊池、久野、坂口、柴田、
清水、杉山、禪野、鳥塚、笛田、和田

欠席者：井上、岡田、子安、柳原

〈審議事項〉

1. 入退会

磯田理事より3人の入会と1人の退会についての提案があり、承認された。

2. 2025年度研究大会

浦部理事長が岡田理事の準備した資料を代読し、以下の内容が承認された。

2024年6月14～15日に名古屋大学国際開発研究科にて開催予定。対面のみでの開催。ただし、総会に関してはハイブリッドとすることを検討中。託児に関しても準備中。実行委員会は発足済み。報告募集などは2024年度大会と同様の手順で進める。個別報告は会員に限定し、パネル報告は非会員も一部認める予定。基調講演はIlán Bizberg教授（Colegio de México）に依頼し内諾済み。

3. 年報編集

奥田理事より国際文献社への業務委託に関して以下の提案があり、承認された。

投稿者からの原稿受取、査読者への査読書類一式の送付及び査読結果の受取、査読結

果の投稿者への通知、投稿者からの採用稿の受取、採用稿の校正および完成稿の作成（公開用PDF作成を含む）、そして現在は他社に依頼しているJ-STAGEへの掲載を国際文献社に委託する。

投稿論文20本、採用6本の場合の見積もり額（年額）は1,014,519円である（ただし初年度のみかかる「システム稼働準備費用」200,000円を含む）。本稼働まで4ヶ月ほどかかるので、2025年3月締め切り分から新システムに移行する予定。できれば11月の会報でアナウンスする（注：正確な移行時期が未定のため、アナウンスは後日行います）。

4. 東日本研究部会

浦部理事長が柳原理事の以下の提案内容を代読し、承認された。

2024年12月8日（日）13:00～17:00にオンライン開催。報告申込締め切りは11月10日（日）。

5. 中部日本研究部会

浅香理事より以下の提案があり、承認された。

2024年11月30日（土）13:30～17:00にオンライン開催（注：理事会後、募集受付終了後に、11月30日10:00～12:00及び13:30～15:30に開催するよう時間変更）。報告申込締め切りは10月30日（水）。当日は会員の報告の他、ペルー・パシフィコ大学のオマル・マンキー・ボニージャ（Omar Manky Bonilla）准教授に招待講演を依頼。テーマは「Construyendo el capitalismo académico latinoamericano: Negociando la reforma universitaria en Perú (2014–2023)」の予定。

6. 西日本研究部会

禪野理事より以下の提案があり、承認された。

2024年12月15日（日）13:00～17:00にハイブリッド（対面とZoom）開催。対面会場は関西学院大学大阪梅田キャンパス1404教室。報告申込締め切りは11月15日。

7. ウェブサイト・ニュース配信

和田理事より、ウェブサイト運営のため、Adobe Dreamweaverサブスクリプション年間プラン（34,680円）を購入したとの報告があり、承認された。

8. 学術会議・国際交流

(1) 早期キャリア支援制度について

坂口理事より、学会ウェブサイト上の早期キャリア支援制度に関する説明を明確にするための詳細な修正案が出された。助成対象者数を4か月に1名ずつではなく年間3名とするなどの修正案は承認され、今後の運営に関しても、早期キャリア研究者を支援するという制度の趣旨を活かすかぎりにおいて坂口理事に一任する。

(2) 研究奨励費申請について

坂口理事より、加藤勲会員から研究奨励費の申請があったとの報告があり、申請は承認された。

〈報告事項〉

1. 理事長

(1) 学会資産の管理

学会名義のゆうちょ銀行の普通預金口座に関し、学会の住所と代表者の名義を変更した。

資産の累積に対して、会費を削減するとか記念出版をするなど、解決策を検討しなければならない。

(2) 会則変更の必要性

口座の管理のために必要なので、会則を変更し、設立年月日、事務支局の設置、事務支局の所在地（国際文献社）について追記する必要がある。これについては次回の理事会での原案の承認を経て、来年度の総会に諮る。

(3) 早期キャリア研究者支援の体制整備

春の地域部会を院生・早期キャリア研究者の修論・博論の発表会とし、特別な位置付けを持たせること、非会員の発表を奨励してこれを学会参加の入口とすることなどを進めたい。

(4) ラテン・アメリカ政経学会（JSLA）全国大会・特別企画への本学会員招待

2024年11月10日（日）におこなわれるラテン・アメリカ政経学会全国大会の以下のセッションとシンポジウムに本学会員がオンラインで招待される。

・特別企画セッション（13:00-14:30）

「どうやってラテンアメリカに興味を持ってもらうか：21世紀のラテンアメリカ社会に関する教科書作成研究会をベースに」

・特別シンポジウム（14:40-16:30）

「次代のラテン・アメリカ研究のために還暦を迎えた本学会に期待されること」

(5) LASAをはじめとする海外関連機関との国際交流

LASA Asia-Pacific（LASA Asia-Oceania）の開催案があり、その候補地の一つとして東京が検討されているようである。

2. 事務局

磯田理事より、以下の2点について報告があった。

(1) 2024年度の会費納入体制

来週、会費オンライン決済のテストをする予定。理事会のメンバーで先にテストをする。

(2) その他

元会員より、過去に年報に掲載された論文を自著に掲載することに関する届け出があり、了承した。

3. 会計

柴田理事より、前年度会計担当者からの引き継ぎを済ませたとの報告があった。

4. 会報編集

(1) 会報144号の発行

前理事会会報担当の磯田理事より、会報144号を発行したとの報告があった。大会報告のところで非会員によるポスター発表については諸事情により掲載できなかったので、次回大会においてもポスター発表に非会員を招待する場合、学会から3,000円の助成金を出すため、募集の段階からHPで所属・氏名・タイトル・概要が掲載されることについて同意を得る必要があるとの意見が述べられた。

(2) 会報145号の発行

安保理事より、会報145号を11月30日付で発行予定であり、原稿締め切りは10月12日であるとの報告があった。

5. 年報編集

奥田理事より、完全電子化された年報44号は9月に掲載された論文1本を持って掲載作業が終了し、結果として記念講演原稿1本、研究ノート2本、論文1本が掲載されたこと、そして第45号は6月、9月、12月、来年3月の締め切りを設けて原稿を募集していて、6月締め切り分は1本の投稿論文が査読の結果、掲載不可となったことが報告された。

6. ウェブサイト・ニュース配信

和田理事より、ウェブサイトとニュース配信の運営に関して9月に引き継ぎをおこない、当面は石田前理事と和田理事とアルバイトの学生の3名で運営をおこない、その後、和田理事と学生の2人で運営することになるとの報告があった。

また、ウェブサイトの「バックナンバー」欄で2022年までの論文がPDFで閲覧できるが、ここでアクセスされた分はJ-STAGEのアクセス統計に含まれないので、全てJ-STAGEに統一した方がよいのではないかという案が懇談事項として出された。

7. その他

次回理事会は1月13日（月・祝）に開催する。

2. 第46回定期大会の開催と発表者募集のお知らせ

第46回定期大会は、2025年6月14日（土）および15日（日）の2日間、名古屋大学国際開発研究科にて、同研究科との共催として開催します。基調講演、シンポジウムについては現在調整中です。奮ってのご参加をお待ち申し上げます。

報告をご希望の方は、2025年1月11日（土）までに、第46回定期大会ポータルサイト (<https://ajel2025.blogspot.com>) の「報告を希望される方へ」ページをご確認の上、必要事項を記入してお申し込みください。

1. 個別研究報告の申し込み

個別研究報告を希望される方は、メールアドレス、報告者の氏名、所属機関名、報告タイトル（日本語の場合は欧文も）、希望する討論者などの必要事項を記入してお申し込みください。報告要旨は300～400字（欧文150～200 words）としてください。個別研究報告には討論者がつきますので、希望する討論者の氏名（複数可）の入力にご協力ください。討論者への依頼と最終選定は大会実行委員会が行いますが、ご希望に沿わない可能性があることを予めご了承ください。

2. パネルの申し込み

パネル報告を希望される場合、メールアドレス、パネル代表者の氏名と所属機関名、パネルのタイトルとその概要、および各報告者・討論者の氏名と所属機関、報告タイトル（日本語の場合は欧文も）などの必要事項を記入してお申し込みください。パネル概要は300～400字（欧文150～200 words）を目安としてください。司会、報告者および討論者の人数や時間配分はパネル代表者の責任のもとで決定してください。パネルの持ち時間は120分です。司会者、報告者、討論者は原則として日本ラテンアメリカ学会

員とします。ただし、パネルの趣旨に沿い、構成上不可欠と判断される場合には非会員の参加も認められます。その場合には、非会員を加える理由をつけてお申し込みください。非会員は、1名につき、大会参加費として1,000円をお支払いいただきます（共催校である名古屋大学国際開発研究科の教員・学生を除く）。

3. 託児所の利用について

本大会では、大会参加者専用の託児室を開設、あるいは託児サービスの利用補助を行う予定です。詳細が決まりましたら、定期大会ポータルサイトや学会ニュースのメール配信でお知らせいたします。利用には事前申し込みが必要となる予定です。

4. 大会までのスケジュール（予定）

- ・2025年1月11日（土）：報告申し込みの締切
- ・2月中旬：報告申し込みの採否通知
- ・3月22日（土）：報告要旨締切日
- ・5月24日（土）：報告ペーパーの提出締切日

個別報告とパネルのいずれにおいても、報告者は事前に報告ペーパーを提出していただきます。ご提出いただいたペーパーは、第46回定期大会開催日をはさむ前後2週間程度、パスワードを設定した上でポータルサイトからアクセス可能な状態にする予定です。

多数のご応募、ならびに大会へのご参加をお待ちしております。大会の詳細につきましては、随時定期大会ポータルサイトや学会メール配信でお知らせいたします。

【実行委員会連絡先】

第46回定期大会実行委員長 岡田 勇（名古屋大学）

メールアドレス：ajeltaikai2025@gmail.com

ポータルサイト：<https://ajel2025.blogspot.com>

3. 地域研究部会開催案内

〈東日本研究部会〉

日本ラテンアメリカ学会東日本研究部会では、以下の要領で2024年度第1回の研究部会を開催いたします。研究報告を募りますので、ご応募をお待ちしております。

【日 時】2024年12月8日（日）13:30～17:00

【開催形態】Zoomによるオンライン開催

【募集内容】研究成果報告のほか、研究途中報告、現地報告、研究動向報告など、個別やパネルでの発表が可能です（ただし、未発表であること。定期大会や他地域の研究部会での既発表不可）。

1つの報告につき、発表時間は30分、討論者（コメンテーター）が付く場合は10分、質疑応答の時間は10分です。パネルについては別途考慮しますので、ご相談ください。

【資格】日本ラテンアメリカ学会会員であること。または報告日までに入会申請書を提出していること。東日本部会が主催しますが、報告者、参加者の居住地は問いません。

【報告申し込み先】11月10日（日）までに、以下の情報を担当理事の柳原孝敦 yanataka # 1.u-tokyo.ac.jp にお知らせください（#を@に変更する）。

(1) 氏名、(2) 所属、(3) 論題、(4) 200字程度の発表要旨、(5) 討論者（コメンテーター）を希望する場合は、その氏名とメールアドレス（会員に限ります。交渉は担当理事が行いますので、発表希望者の方がその承諾を得ておく必要はありません）。

【オンライン参加申込先】研究会のプログラムが確定した後、あらためて広報しますが、おむね11月30日（土）までに、担当理事までお知らせください。Zoom招待URLを連絡します。

東日本研究部会
担当理事 柳原孝敦

〈中部日本研究部会〉

日本ラテンアメリカ学会中部日本研究部会では、以下の要領で、2024年度第1回の研究会を開催いたします。研究報告を募りますので、ご応募をお待ちしております。また、研究会の後には1時間ほどの懇親会を予定しております。

【日時】2024年11月30日（土）13:30～17:00

【開催形態】Zoomによるオンライン開催

【募集内容】研究成果報告のほか、研究途中報告、現地報告、研究動向報告など、個別やパネルでの発表が可能です（ただし、未発表であること。定期大会や他地域の研究部会での既発表不可）。

1つの報告につき、発表時間は30分、討論者（コメンテーター）が付く場合は10分、質疑応答の時間は10分の予定です。パネルについては別途考慮しますので、ご相談ください。

【資格】日本ラテンアメリカ学会会員であること。または報告日までに入会申請書を提出していること。中部日本部会が主催しますが、報告者、参加者の居住地は問いません。

【報告申込先】10月30日（水）までに、以下の情報を担当理事の浅香 asakass # nanzan-u.ac.jp にお知らせください。（#を@に変更する）。

(1) 氏名、(2) 所属、(3) 論題、(4) 200字程度の発表要旨、(5) 討論者（コメンテーター）を希望する場合は、その氏名とメールアドレス（会員に限ります。交渉は担当理事が行いますので、発表希望者の方がその承諾を得ておく必要はありません）。

【オンライン参加申込先】研究会のプログラムが確定した後、あらためて広報しますが、概ね11月25日（月）までに、運営委員 丹羽 niwa2wani # yahoo.co.jp にお知らせください。（#を@に変更する）Zoom招待URLを連絡いたします。

中部日本研究部会
担当理事 浅香幸枝／杉山知子
運営委員 丹羽悦子

〈西日本研究部会〉

日本ラテンアメリカ学会西日本研究部会では、以下の要領で、2024年度第1回の研究部会を開催いたします。つきましては、研究報告を募りますので、どうぞふるってご応募ください。

【日時】 2024年12月15日（日）13:30～17:00

（発表者が多い場合は13時から開催といたします）

【開催形態】 対面とZoomによるハイブリッド形式

【対面会場】 関西学院大学大阪梅田キャンパス1404教室

アクセス https://www.kwansei.ac.jp/kg_hub/access

Tel. 06-6485-5611

【募集内容】 研究成果報告のほか、研究途中報告、現地報告、研究動向報告など、個別やパネルでの発表が可能です（ただし、未発表であること。定期大会や他地域の研究部会での既発表不可）。

1つの報告につき、発表時間は30分、討論者（コメンテーター）1名によるコメントが10分、質疑応答の時間は10分の予定です。

【資格】 日本ラテンアメリカ学会会員であること。または報告日までに入会申請書を提出していること。西日本研究部会の主催ですが、発表者、参加者の居住地は問いません。また、ハイブリッド開催ですが、発表者が関西まで来られない場合はZoomでの発表も受け付けます。

【報告申込先】 11月15日（金）までに、以下の情報を担当理事の禪野 bot82103 # kwansei.ac.jp（#を@に変更する）にお知らせください。

(1) 氏名、(2) 所属、(3) 論題、(4) 200字程度の発表要旨、(5) 希望する討論者（コメンテーター）の氏名とメールアドレス（会員に限ります。第1希望と第2希望をお知らせください。交渉は担当理事が行いますので、発表希望者の方がその方の承諾を得ておく必要はありません）。

【参加申込先】 研究部会のプログラムが確定した後、あらためて広報しますが、12月7日（土）までに、オンラインと対面どちらで参加希望であるか、運営委員の福間にお知らせください。オンライン参加希望の方には追ってZoom招待URLをお伝えします。

西日本研究部会

担当理事 禪野美帆

運営委員 福間真央

4. 『ラテンアメリカ研究年報』第45号の原稿募集について

『ラテンアメリカ研究年報』の原稿は、年4回（9月末、12月末、3月末、6月末）募集しております。締切ごとに順次、査読を行い、掲載が決まった論文からJ-STAGEにて公開しております。

第45号の次回原稿締切は12月末です。若手から中堅、ベテランまで、多くの会員からの活発な投稿をお待ちしております。

5. 新刊書紹介

宇佐見耕一編著
『ラテンアメリカと国際人権レジーム
先住民・移民・女性・高齢者の人権はいかに守られるのか』
晃洋書房、2024年、187頁（紹介者：横田香穂梨 津田塾大学国際関係研究所）

本書は、2022年までの科研費（19H0473）「ポスト新自由主義時代におけるラテンアメリカの人権レジーム：地域統合と各国での実践」の研究成果として刊行された。1948年採択の「世界人権宣言」に始まる国際的な人権保障の取り組み（国際条約、宣言、規約）を「国際人権レジーム」と定義し、その実態をラテンアメリカ地域から照射する意欲的な著作である。

ラテンアメリカの人権については、自由権と社会権からなる人権の制度化が早期から進んだ一方で、実効性と適用範囲に限界があるという従来からの通説がある。本書は、7人の執筆陣がマクロとミクロの豊富なデータに基づき、最も保護を必要としているものの、しばしば人権保障の適用外とされてきた社会的脆弱層に関する各国国内法の整備と実態が国際人権レジームとどのように相互作用してきたのかという問いに正面から挑んでいる。各章が明らかにするのは、いずれも通説からは抜け落ちてきた、地域の人権アクター（主に米州機構）や市民社会、各国政府が、国際人権レジームの構築やその実効化のために、地域の実情を踏まえて主体的に関与してきた姿であり、社会的脆弱者自身が国際人権レジームの影響を受け変わる国内法の世界をたくましく生き抜いてきた姿である。

具体的には、「国際人権レジーム」概念とラテンアメリカの人権状況の説明からなる序章、アルゼンチンの高齢者保護（第1章）、メキシコの家事労働者の人権保障（第2章）、メキシコの移民／難民の法整備と実態（第3章）、ペルーの先住民権利擁護に関するマクロ分析（第4章）、ペルーの先住民の違法金採掘問題にかかわる事前協議制度の有効性に関するミクロ分析（第5章）、コスタリカの先住民居住区設定が教育と土地問題に与えた影響に関するミクロ分析（第6章）、ベネズエラのマドゥロ政権による人権侵害に対する国際社会の関与（第7章）、終章という構成からなる。7つの事例研究を通して国際人権レジームとラテンアメリカ地域との相互作用が多面的に描かれている。

紹介者は、主にブラジルの子どもの人権保障と暴力の実態を地域史の視点から研究している（JSPS 科研費20K12355）。本書に関して、先住民に関する論考が3本ある一方、同じく社会的脆弱層であるアフリカ系の人々に関する論考がなかったことが残念であった。また、ラテンアメリカ各地で行われてきた子どもの人権に関わる多様な教育的実践が、人権保護の最初の一歩として不可欠な「当事者である社会的脆弱者層の人々自身が『自分たちの権利について知らない』という事態の解消」に一定の役割を果たしてきたことを踏まえ、国際人権レジームの実現をより実効性のあるものとする上で司法的な実践と教育的実践を両輪として捉えるアプローチも可能であり、そこに民衆教育の伝統が豊富なラテンアメリカの強みもあるのではないかと考えた。

冷戦終焉後の国際社会は、国際人権レジームが包摂する「地域」と「イシュー」が拡張し続けることを楽観視してきたきらいがあるが、今日の世界は、それが前提としていた共通の価値の共有すら危うくなっているように思われる。本書が描いた、法と現実が乖離し、歴史構造的な格差を解消し人権を普遍的に保障することに無数の課題を抱えているラテンアメリカの実情は、世界への教訓に満ちており、そこにラテンアメリカから人権を考える意義があるとも言えるのではないかと考えた。

寺尾隆吉編著
『ラテンアメリカ文学の出版文化史
作家・出版者・文芸雑誌と国際的文学ネットワークの形成』
勉誠社、2024年、320頁（紹介者：花方寿行 静岡大学）

本書のテーマはタイトル・副題に謳われている通りなのだが、より厳密には（帯には書かれているが）20世紀初頭から中頃、ボルヘス、ルルフォらからいわゆる「ブーム」が巻き起こる1960年代までが主な研究対象となっている。地域的にはアルゼンチンとメキシコを中心に、ウルグアイとベネズエラも分けて扱われている。全体は第I部「概論」と各論を収めた第II部に大別され、執筆者は概論およびアルゼンチンを中心にした各論の2章を担当する編著者の寺尾氏に加え、大西亮、浜田和範、仁平ふくみ、藤井健太郎、グレゴリー・サンブラーノ（翻訳は栗原佑紀子）の各氏である。

近年は文学研究でも、出版者や流通などメディアに注目する研究が増えてきている。本書の参考文献リストを見ると分かるように、スペイン語圏でもこうした研究が盛んになっているが、まとまった日本語文献は19世紀メキシコを扱った長谷川ニナ／八木啓代『ホセ・グアダルーペ・ポサダの時代』くらいしかないのが現状だ。本書の重要性は、20世紀ラテンアメリカの出版状況に重点を置いて、その全容を一瞥できるようにしたことにある。扱われる作家・作品が日本でも多くの翻訳が出ている有名どころばかりなので、本書が扱う出版者や彼らの関係性について、この時期のイスマノアメリカ文学を研究する者が全く知らないようなことはあまりない。だが今までは作家・作品の紹介・解説や伝記において付随的に言及されてきた内容が、雑誌『スール』やスダメリカーナ、FCE、ホアキン・モルティス、モンテ・アビラといった出版社とその編集者たちに焦点化して整理され、細かいデータやエピソードが加えられることで、より関連がわかりやすくなっている。これから研究を始める学生には、入門に適した1冊だろう。またメキシコやウルグアイにおける特定作品のカノン化の問題は、文学とナショナリズムの関係に関心のある研究者にも刺激を与えるだろう。

もっとも執筆者がメディア研究よりは作家・作品研究を中心として活動してきた面々なので、メディアとの関係から論を始めても最終的に作家論・作品論に戻ってしまうくらいがあるのは、やむを得まい。ただ「ブーム」の形成と出版社の働きに重点を置くのであれば、スペインの出版社とはいえセイス・バラルについては1章割いてほしかった。また著作権整備の進んだヨーロッパに対して、無頓着であったアルゼンチンだからこそボルヘスらが前衛的な活動ができたという対比も、アメリカ合衆国もこの時期著作権条約を批准していなかったことや、日本でも明治から敗戦後しばらくまで、外国文学の翻訳における勝手な改作や翻案がざらにあったことを考えると、単純化されすぎている。このあたりはもう少し他の地域と比較するなどして、論を深める余地があると言える。

最後に苦言を一つ。本書では執筆者が翻訳し刊行された作品が言及される時には、その訳題が示される形で統一されている。これ自体は、たとえその訳題が直訳やより広く普及した訳書のものとも異なっても、原題が推測できる範囲であれば問題ない。だがカブレラ＝インファンテの *Tres Tristes Tigres* を一貫して『TTT』と記述するのは、原書で読んでいる者やこの訳書に親しんでいない者には不親切である。せめて括弧書きで原題かその直訳に近い訳題を示しておくべきだろう。

村上勇介編
『現代ペルーの政治危機 揺れる民主主義と構造問題』
国際書院、2024年、229頁（紹介者：宮地隆廣 東京大学）

2020年代のペルー政治が憂慮すべき状況下にあることは、多くの報道や研究によって伝えられてきた。2021年、ペルー政治史上初とされる急進左派の大統領となったペドロ・カステイジョは安定した政権運営に失敗した。行き詰まりを打開すべく、カステイジョは翌年に自主クーデターを試るも失敗に終わり、反乱罪で逮捕された。これに伴い、副大統領のボルアルテが大統領となったが、選挙前倒しなど高地部を中心に発生した要求は受け入れられず、ボルアルテは政権の座に居続けている。合意形成が困難な政党政治、そして政府に不満を抱える社会という、民主制での政治を難しくする状況がここに顕在化した。本書はその中にペルー政治の根深い問題を見出す。執筆者は全て日本ラテンアメリカ学会の会員である。

本書はペルー政治の背景に「構造問題」があると唱える。構造を変更困難な人間関係と定義するならば、その問題は過去から現在まで存在し続け、長期にわたってペルーの政治にまつわる様々な側面に影響を与えてきたことになる。その内容とは(1) 著しい階層間格差と首都リマを含む海岸域に発展の重心がある社会構造、(2) 天然資源を中心とする第一次産品の輸出に依存し、かつインフォーマル部門が圧倒的な経済構造、(3) 個人主義的な支配と小党分裂的な傾向が強く、合意形成が困難な政治構造である。

本書に収められた6つの章は、ペルー政治経済史の流れを広く見渡した上で(第1章)、政党(第2章)や社会紛争(第3章)、地方制度改革(第4章)、カステイジョ以後の政治(第6章)、さらには大きな政治の変動が見られた1930年代の政治改革にまで遡って(第5章)、こうした構造問題が繰り返し出現していることを示している。21世紀のペルー政治にまつわる重要な論点と、その歴史的な背景とが広くカバーされており、結果的にペルー政治を体系的に把握するための情報を知ることができる点は、本書の大きな魅力のひとつである。また、量的データに依拠した考察(第3章、第6章)や比較政治の理論を踏まえた質的な考察(第2章、第4章)、さらには現代政治の問題意識から歴史的資料を見直す考察(第5章)など、多様なアプローチが用いられている点、政治分析の手さばきを知る上でも非常に有益な書籍である。

本書の主張については、構造(1)の重要性に触れられたことが評者にとって最も大きな収穫であった。このことは隣国のチリやボリビア、エクアドルと比較すると見えてくる。チリは首都人口が全人口に占める比率がペルーより高いものの、格差の主たる要素となっている先住民の人口比率は低い。ボリビアとエクアドルではペルー相当の先住民人口比率が推計される一方、ボリビアにはサンタクルス、エクアドルにはグアヤキルという経済の中心地があり、首都への集中が緩和されている。第6章で書かれている通り、ペルーの中央＝地方関係が人種や経済活動のあり方と重なり、人々の認識にまで影響する強力な構造になっているという指摘は、まさにペルーならではのことに気付かされた。

一方、(3)については、「ペルーで政治危機があるのは、そもそも合意ができない社会だからだ」という同語反復同然の主張になりはしないかと、若干の不安を感じるの筆者だけであろうか。個人主義的な支配や小党分裂の原因は掘り下げられないのか、本書では取り上げないとされた国家建設の過程が関わってくるのではないかなど、さらに議論を発展させる可能性を感じさせるところもあった。

6. ポスター発表を振り返って

第45回定期大会では、本学会で初めての試みとして、非会員の方にもポスター発表に参加して頂きました。そのうち3件について、概要を以下の通りご報告します。

「インドネシア首都移転から見る海洋アイデンティティの継承」 向井ショーン虎太郎（東京外国語大学大学院博士前期課程1年）

2019年インドネシアは首都移転計画を発表し、西ジャワのジャカルタから東カリマンタンへと島と海を超えたこの計画は独立・建国100周年の2045年の完成を目指している。現在7代目となるジョコウィ大統領が計画した本首都移転だが、その起源は初代大統領スカルノに遡ることができる。スカルノ自身もオランダ植民地支配の影響からの独立を目指して首都移転を目指した。ジョコウィは一方で、人口・経済がジャワに集中し、ジャカルタの都市問題が深刻化していることに懸念し、地域間格差の是正を目指して首都移転を行っている。ただ、目的が違うとはいえ、海洋アイデンティティは継承されている。というのも、スカルノ政権期、インドネシア周辺海域は公海で同国の主権下にはなかった。そこで、海上主権獲得を目指してスカルノ政権で首相を務めたジュアンダがヌサンタラ構想を掲げて国連に働きかけ、以降ヌサンタラ構想は各大統領の海洋政策の礎となった。新首都の名前もヌサンタラであり、そこに海洋アイデンティティの継承を見出すことができる。これは旧首都がメガシティ（人口1,000万人以上）であるブラジル（地域間格差の是正を目指した内陸部開発としての首都移転）やナイジェリア（宗教・民族対立の回避を目指した国土の中心・内陸部への首都移転）の事例と比較しても顕著にみられる特徴である。

「ペルーにおける Fuerza Popular の組織化の検証」 大城実（東京大学大学院修士1年）

本発表では、ペルーにおけるケイコ・フジモリが率いる政党、Fuerza Popularの組織化の検証を行い、その結果を報告した。

これまでの多くの研究によって、ペルー政治は、「政党なき政治」と呼称され、政党が組織化されていないため、政党が弱いという問題点が指摘されてきた。しかし、一部の研究者は、Fuerza Popularがフジモリズムという明確なイデオロギーを持っていること、これまでの選挙での政治的な成功から、Fuerza Popularは例外的な存在であり、ペルーで唯一の組織化された政党であると指摘している。

本研究では、Fuerza PopularとAcción Popularの党員に注目し、両政党の組織化度合いを算出し、比較した。結果として、Fuerza PopularはAcción Popularに比べ、党の組織化度合いで大幅に遅れていることが判明した。このことから、Fuerza Popularはペルー政治において、党の組織化度合いという点では例外的な存在でなければ、より組織化された政党が他に存在することを指摘し、一部の研究者の指摘が当てはまらないことを示した。

「ボルソナーロを支持する在日ブラジル人
—宗教、メディア、トランスナショナル選挙運動—
Motta de Moura Matheus (東京外国語大学大学院 総合国際学研究所博士前期課程1年)

本報告はなぜ大多数の在日ブラジル人がボルソナーロに投票したのかという問いに対する一つの見解を示すものである。2018年と2022年のブラジル大統領選挙の際、政治の二極化があった。2022年の選挙結果では、ルーラがブラジル大統領に選出されたが、在日ブラジル人有権者の80%はボルソナーロを支持した。また、2018年の選挙でも、日本でのボルソナーロの支持率は9割に達した。この特異な投票行動は、日本以外の多くのブラジル人の注目を集めた。2018年と2022年のブラジル大統領選挙においてボルソナーロに投票した在日有権者へのインタビュー調査に基づき、宗教、メディア、トランスナショナルな選挙運動が有権者の行動に及ぼした影響を分析した。その結果、プロテスタント宗教の思想と教会出席、虚偽のニュース・偏ったメディア消費、ボルソナーロとの直接出会いが、ボルソナーロ支持という有権者の投票行動を促したことが分かった。影響の度合いは個々のケースで異なるが、この傾向はブラジル国内のボルソナーロ支持者のケースと類似している。

7. 事務局から

入会・退会・資格変更 (第180回理事会承認)

〈入会〉3名

〈退会〉1名

編集後記

今号から会報の編集担当が川上（慶應義塾大学）と安保（立命館大学）に交代します。実は今回編集を担当した安保は、2018年以來2回目の会報担当です。こんなことになると予想できなかった僕の脳は、業務記憶をさっくり削除してしまったようです。でもそもそも、完全電子化されるなど、この間大きな改革が起こっていて、いろいろアップデートが必要でした。ともかくも、こうして第145号を刊行することができたことに安堵し、原稿執筆にご協力くださった会員の皆さまに感謝しております。

「この間」を境に、オンラインツールで簡単に繋がれるようになった一方で、現実のラテンアメリカは遠くなったように感じます。なんととっても円安、海外の物価高、航空運賃高騰の影響は甚大です。僕自身、この夏、清水の舞台から飛び降りる覚悟でニューヨークとプエルトリコに出張に行きましたが、翌月のクレジット明細を見たとき、あべのハルカスから飛び降りる覚悟が必要やったと青ざめました。

それほどの大出費をしたにもかかわらず、今回の出張では愚かすぎる失敗をしました。出発地点の伊丹空港で、搭乗前に室内用の古いメガネをかけたまま、外出用のメガネを待合椅子に忘れたのです。結果、可視範囲2メートル未満の旅となりました。でもわかったこともあります。世界はほやけていた方が美しく見える。自由の女神もプエルトリコのビーチも、一点のシミも汚れも見当たらず、この世のものとは思えないほどキレイでした。

(安保寛尚)

会費納入のお願い

2024年5月の総会で承認されたように、会費の支払いは原則オンライン決済システムをご利用いただくことになっています。会費納入に際しては、11月12日付メールでお伝えしたように、クレジットカード決済、あるいはコンビニ店頭でお支払いください。万が一メールを受信していない方は、事務局で登録されているメールアドレスを修正しますので、国際文献社（ajel-post@as.bunken.co.jp）までご連絡ください。なお、オンライン決済の手順は以下の通りです。

- ① PCから学会HPのトップ画面にアクセスし、左側のメニュー一覧ボタンの一番下「マイページ」、あるいは下記リンクをクリック

<https://iap-jp.org/ajel/mypage/login/login>

*必ずPCからアクセスしてください。PC以外は動作保証の対象外です。

- ② 会員番号・パスワードを入力し、「ログイン」をクリック

*11月12日付のオンライン決済システム導入に関する国際文献社からのお知らせメールに会員番号・パスワードも記載しております。システムの関係上、既に今年度の年会費をお振込みいただいた方にもメールが届いてしまいましたが、その場合はご放念ください。

日本ラテンアメリカ学会 マイページ
ログイン

推奨動作環境はこちらをご確認ください。

会員番号とパスワードを入力してください

会員番号	<input type="text" value="0998"/>
パスワード	<input type="password" value="*****"/>

パスワードを忘れた方は[こちら](#)

- ③ 会費納入状況の確認と支払い（クレジットカード、コンビニエンスストア）の「画面へ」をクリック

日本ラテンアメリカ学会 マイページ

ログアウト

メニュー 会員番号: 0998 お名前: 正会員 太郎

機種依存文字を使用しますと、文字化けが発生し、内容が正しく入力されない場合がありますので、ご注意ください。
機種依存文字の説明は[こちら](#)をご参照ください。

パスワードの変更	変更後、登録されているEメールに確認メールを送信します。	画面へ
登録情報の確認・変更	掲載済みの会員情報は、事務局で保管しているデータベースをもとに作成しています。掲載内容を各自でご確認の上、必要に応じて修正してください。 変更後、随時先として登録されたEメールに確認メールを送信します。	画面へ
会費納入状況の確認と支払い (クレジットカード、 コンビニエンスストア)	会費の納入状況と入金日の確認ページです。 未納会費がある場合、クレジットカード、コンビニエンスストア決済による支払いが可能です。	画面へ
会員名簿の検索	氏名、所属機関名（非公開情報は除く）、自宅都道府県（非公開情報は除く）、専門分野に関する情報から、会員の検索ができます。	画面へ

- ④ 会費の金額が間違っていないか確認

* 正会員 ¥7,000、早期キャリア・シニア会員 ¥3,000、賛助会員 ¥30,000/1口

* 金額に間違いがある場合は、お手数ですが国際文献社 (ajel-post@as.bunken.co.jp) へメールでお知らせください。

* 早期キャリア・シニア会員への変更をご希望される方も、国際文献社 (ajel-post@as.bunken.co.jp) へメールでお知らせください。

正会員 太郎 様の会費納入状況をご案内します。

2024年度	7,000円 未納
2023年度	-
2022年度	-

※入金状況の反映には多少お時間がかかります。

年会費についてのご案内

正会員	7,000円
正会員(早期キャリア)	3,000円
シニア	3,000円
賛助	30,000円(1口)

- ⑤ 金額に間違いがなければ、「決済手続きへ」をクリック
*繰り返しとなりますが、必ずPCから操作してください。

④ 年会費についてのご案内	
正会員	7,000円
正会員(早期キャリア)	3,000円
シニア	3,000円
賛助	30,000円(1口)

⑤ 支払い方法	
■クレジットカード	決済手続きへ
■コンビニエンスストア支払い	

(iPadやスマホなどのタブレット類からのアクセスは動作保証対象外につき、必ずPCからお支払い手続きを進めて下さい)

- ・株式会社GMOペイメントゲートウェイの決済画面に遷移します。
- ・決済画面にて決済方法を選択します。
- ・日本ラテンアメリカ学会では、(株)国際文献社に会費収納を委託しており、決済画面では業務委託先「株式会社国際文献社」と表示されます。

- ⑥ 「お支払方法を選択してください」をクリックし、「クレジットカード」あるいは「コンビニ」を選択

ご利用内容	
① 取引詳細	
合計	¥7,000

お支払い手続き	
お支払い方法を選択してください	▼

〈クレジットカード払いを希望される場合〉

*コンビニでの支払いを希望される場合、⑨～(p.18～)を参照してください。

- ⑦ 「クレジットカード」をクリックし、カード番号、有効期限、名義人、セキュリティコードを入力し、「次へ」をクリック

*一括払いをお願いします。

クレジットカード

クレジット番号

4111111111111111

有効期限 (月) 有効期限 (年)

01 2024

名義人

GAKKAI TARO

セキュリティコード

000

支払方法

一括払

一括払

戻る 次へ

- ⑧ 入力内容が正しければ「確定」をクリック

*修正が必要な場合は「再入力」をクリック

クレジットカード

クレジット番号

411111****1111

有効期限 (月 / 年)

01 / 2024

名義人

GAKKAI TARO

セキュリティコード

支払方法

一括払

再入力 確定

- * 「お支払い手続きが完了しました。」の表示が出た場合、正常に完了しました。
- * 「お支払い手続きに失敗しました。このカードでは取引をすることが出来ません。発行元カード会社にご確認ください。」というメッセージが表示された場合、別のカード情報を入力する、あるいは、コンビニ決済をご利用ください。
- * マイページへの入金情報の反映は、決済完了日の翌々営業日以降となります。
- * 領収書の発行も入金情報が反映されましたら、マイページの「領収書の発行」の「確認」をクリックし、保存・印刷をしてください。PDFの発行は一度きりです。

お支払い手続き

お支払い手続きが完了しました。

決済手段	クレジットカード決済
支払方法	一括払
クレジットカード番号	411111*****1111

[サイトに戻る](#)

〈コンビニでのお支払いを希望される場合〉

- ⑨ ローソン、ファミリーマート、ミニストップ、セイコーマートの4店舗から希望するコンビニを選択し、メールアドレス（確認用）を入力し、「次へ」をクリック
*学会に登録されている氏名、電話番号、メールアドレスは入力されています。

The screenshot shows a web form titled "お支払い手続き" (Payment Procedure). It includes several input fields: "ご利用するコンビニ" (Convenience store to use) with a dropdown menu showing "ローソン" (Lawson) selected; "氏名" (Name) with "正会員 太郎" (Regular member Tarou); "フリガナ" (Kana name) with "セイカイイン タロウ" (Seikaiin Tarou); "電話番号" (Phone number) with "0333629741"; and "メールアドレス" (Email address) with "ajel.jalaa@gmail.com". A second "メールアドレス (確認用)" (Email address for confirmation) field is also present with the same email address. At the bottom, there are two buttons: "戻る" (Back) and "次へ" (Next), with "次へ" circled in red.

- ⑩ 入力内容が正しければ「確定」をクリック
*修正が必要な場合は「再入力」をクリック

The screenshot shows the same web form as above, but now the "コンビニ" (Convenience store) dropdown menu is expanded to show "コンビニ" (Convenience store) as the selected option. The "次へ" (Next) button is now disabled, and the "確定" (Confirm) button is circled in red. The "再入力" (Re-input) button is also visible.

⑪ ご指定のコンビニで支払期限までにお支払いください。

*支払期限を過ぎた場合、自動でリセットされますので、再度お手続きをお願いします。

*「ご利用するコンビニ」において「ファミリーマート」を選択した場合のみ、決済完了後に番号およびバーコードが表示されますので、どちらかお選びください。詳細は⑮ (p.21～) をご参照ください。

お支払いについて

お支払いには「お客様番号」と「確認番号」が必要です。
印刷またはメモしてLoppi端末でお手続きを行ってください。

¥7,000

お支払期限 2024/10/29 23:59:59

Loppi端末で下記番号でのお手続きを行ってください。

お客様番号 **LW243024381718**
確認番号 **5528**

⑫ 「メールアドレス」にご入力いただいたアドレス宛に、支払い手続きを記載したメールが送信されます。

この度はご注文ありがとうございます。
下記の内容にてお申し込みを受け付けましたのでご確認のうえ、お支払期限までにお近くのコンビニにてお支払いください。

■ご指定のコンビニ
ローソン

■ご注文内容

店舗（サイト）名：株式会社国際文献社
受付日時：2024/10/28 21:20:40
価格：7,000円
お支払期限：2024/10/29 23:59

※お支払いには「お客様番号」と「確認番号」が必要です。
メモを取るか、このメールを印刷して、コンビニまでお持ちください。
※お支払いは現金のみとなります。

■Loppiでのお支払い方法

お客様番号：LW243024381718
確認番号：5528

*マイページへの入金情報の反映は、決済完了日の翌々営業日以降となります。

*領収書の発行も入金情報が反映されましたら、マイページの「領収書の発行」の「確認」をクリックし、保存・印刷をしてください。PDFの発行は一度きりです。

- ⑬ 操作完了後、メニューに戻り「会費納入状況の確認と支払い（クレジットカード、コンビニエンスストア）」の「画面へ」（p.14）をクリックすると、コンビニ名、支払期限、支払金額、第1番号および第2番号が記されます。

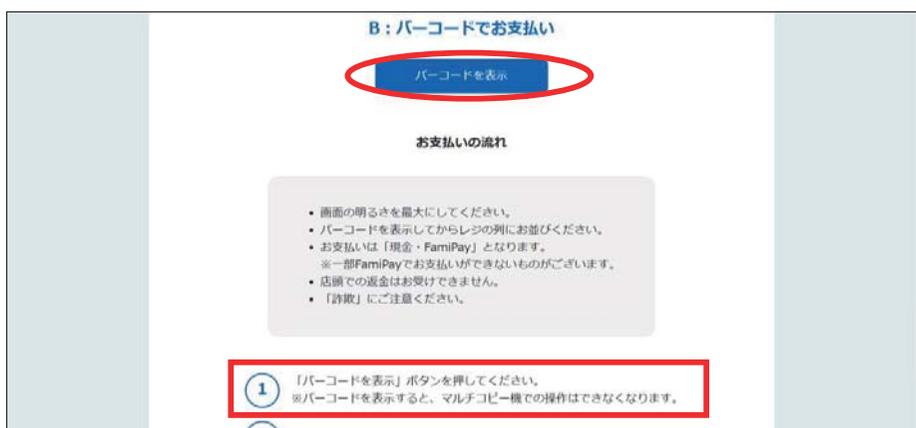
■コンビニエンスストア支払い	■ご指定のコンビニエンスストア ファミリーマート
	■支払い期限 2024/11/01 23:59:59
	■支払い金額 7,000円
	■第1番号(5桁) 12345
	■第2番号(12桁) FM0380357957
	■マルチコピー機でのお支払い方法

- ⑭ 操作方法が不明な場合は、「[お支払い方法詳細](#)」をクリック

- 1 Loppi端末のトップ画面にて「各種番号をお持ちの方」を選択してください。
- 2 「お客様番号」を入力し、「次へ」を選択してください。
- 3 「確認番号」を入力し、「次へ」を選択してください。
- 4 表示された内容を確認後、よろしければ「はい」を選択してください。
- 5 印刷された申込券をレジにて提示し、30分以内にお支払いください。
- 6 代金と引き換えに「払込受領証」を必ずお受け取りください。

[お支払い方法詳細](#)を参照してください。

- ⑮ ファミリーマートを選択した場合、番号もしくはバーコードでお支払いできます。バーコード支払いを希望される場合は、「B. バーコードでお支払い」をクリックしてください。「バーコードを表示」をクリックして表示される画面を保存もしくは印刷いただくか、メールの「バーコード取得用 URL」をクリックし、店頭でお支払いください。



■マルチコピー機でのお支払い方法

第1番号(5桁) : 12345
第2番号(12桁) : FM0380357957

1. マルチコピー機のメニュー画面にて「代金支払い/チャージ(コンビニでお支払い Payment/Charge)」を選択してください。
2. 「レシート(受領書)」に関する注意事項を確認し、「次へ」を選択してください。
3. 「番号入力」を選択してください。
4. 「第1番号(5桁)」を入力し、「OK」を選択してください。
5. 「第2番号(12桁)」を入力し、「OK」を選択してください。
6. 注意事項を確認のうえ、「同意して進む」を選択してください。
7. お支払い内容確認画面を確認のうえ、「確認」を選択してください。
8. 印刷された「Mコピーサービス申込券」をレジにて提示し、30分以内に代金をお支払いください。
9. 代金と引き換えに「レシート(受領書)」を必ずお受け取りください。

■バーコードでのお支払いの場合

バーコード取得URL
<https://ncpfa.famima.com/prd/ebcweb?firstKey=12345&secondKey=FM0380357957&cpNo=001&gyNo=00>

* 何らかの事情によりバーコードの保存に失敗された場合は、自動的にリセットさせるために支払期限が過ぎるまで待機し、最初からお手続きをお願いします。

- ⑩ 操作完了後、メニューに戻り「会費納入状況の確認と支払い(クレジットカード、コンビニエンスストア)」の「画面へ」(p.14)をクリックすると、コンビニ名、支払期限、支払金額、第1番号および第2番号が記されます。

■コンビニエンスストア支払い

■ご指定のコンビニエンスストア
ファミリーマート

■支払い期限
2024/11/01 23:59:59

■支払い金額
7,000円

■第1番号(5桁)
12345

■第2番号(12桁)
FM0380357957

■マルチコピー機でのお支払い方法

* マイページへの入金情報の反映は、決済完了日の翌々営業日以降となります。

* 領収書の発行も入金情報が反映されましたら、マイページの「領収書の発行」の「確認」をクリックし、保存・印刷をしてください。PDFの発行は一度きりです。

以上です。

日本ラテンアメリカ学会 No.145
2024年11月30日発行
学会事務局
(会員情報の変更、入会・退会のご希望、学会HP内のマイページに関するお問い合わせ)
国際文献社
ajel-post@as.bunken.co.jp
(その他のお問合せ)
神田外語大学 磯田沙織研究室気付
ajel.jalas@gmail.com